外国人とともに生きる大田・市民ネットワーク 会報

OC Net つうしん通信

No.133

2026-1.1

NEWSLETTER

「2025 年大田区中国帰国者センターのつどい」基調講演を聞いて

市川　和子

11 月 16 日、大田区消費者センターで毎年恒例の「つどい」が開催されました。

中国帰国者、一般参加者、スタッフ合わせて８６人が集まりました。

まず、日本被団協の和田征子さん（82 歳）が、母から聞いたという長崎被爆直後の様子と来年で 70 周年を迎える日本被団協について詳しく語られました。

日本被団協は、核による被害を二度と起こさないように核廃絶と国家補償を訴えて運動を続けてきました。

そして、2024 年にはノーベル平和賞に選出されました。

授賞式でのあいさつとトーチパレードの映像がニュースで流れ、「No More HIBAKUSHA」を世界中に届けることができました。

次に、バトンは 10 代に渡され、高校１年生の石井瑞樹さんが浅見洋子さんの詩「東京大空襲」を朗読しました。

さきの戦争では、広島で 14 万人、長崎で７万人、東京で 10 万人の尊い命が失われ生き残った者達も心や体に大きな傷を負ったことを次世代に伝えていきます。

続いて、元残留孤児片平征子さんのお話です。

このままでは死んでしまうという瀬戸際で、満州の地で養父母に預けられました。

日本人の子ということで辛い思いもしましたが、養父母の愛情に支えられて乗り越えることができました。

そして 1984 年に日本に帰国することができました。

中国で、日本で、様々な困難を乗り越えることができたのは、養母が愛情いっぱいで育てて下さったおかげだと思います。

毎年のように中国の養父母のお墓参りをしているそうです。

最後に、夕陽紅の皆さんが舞踏を２曲披露して下さいました。華やかな衣装と美しい踊りに魅せられました。

私は「つどい」に初参加です。貴重な学びの時間をありがとうございました。

佐藤　進一郎

和田征子氏の講演を拝聴し、静かな語り口の中にも、一言一言に深い思いが込められていることを強く感じました。

和田さんは１歳 10 か月のときに長崎で被爆されました。記憶こそ残っていないものの、母親から幾度となく聞かされた体験や、その情景として語られた描写を通して、原爆の悲惨さを心に刻んできたといいます。幼いころの記憶がなくても「伝えられた事実を語り継ぐことが私の使命です」と語る姿が、深く胸に響きました。

講演では、「核兵器は人間の存在そのものを否定するものです」という言葉に加え、1956 年に結成された日本被団協の結成あいさつ文の一部が紹介されました。そして、被団協の継続的な活動が、2021 年 1 月 22 日の核兵器禁止条約発効へとつながっていった経緯も語られました。

そこには、戦争や政治の議論を超え、人間として根源的に問われるものがあるように感じました。被爆者の言葉は、単なる「二度と繰り返してはならない」という願いにとどまらず、「人としてどう生きるのか」という問いを私たちに投げかけているように思います。

被爆から 80 年を迎える今もなお、和田さんは各地で語り続けています。

その姿からは、過去を語ることが未来への希望をつくり、想いを伝えることが世代をつなぐことなのだというメッセージが伝わってきました。

「あなたたちの行動こそが、私たちのこれまでの証になる」という言葉を受け取り、私自身も平和を守るために何ができるのかを考え続ける一人でありたいと感じました。

（以下、日本被団協結成にあたってのあいさつ文転載）

全国の被爆者ならびに関係各位の皆さまへ。

本日ここに、日本原水爆被害者団体協議会を結成いたしますにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

広島、長崎への原子爆弾投下より十余年が過ぎました。しかしながら、被爆の傷痕はいまだ癒えることなく、多くの被爆者が健康と生活の不安を抱え、十分な援護を得られぬまま苦難の日々を過ごしております。この現状を見過ごすことは、もはや許されるものではありません。

これまで各地において、被爆者はそれぞれの立場で声を上げ、救済と補償、そして核兵器廃絶を求めてまいりました。しかし、その声はなお弱く、全国的な力として結集することが急務となっております。

ここに私たちは、相互に手を結び、被爆者の生命と権利を守り、再びこの悲劇を繰り返させないため、全国組織としての歩みを始める決意を固めました。これは、被爆者自身の尊厳を守るとともに、世界の恒久平和を希求する強い意志の表れであります。

今後、日本被団協は、すべての被爆者が安心して暮らし得る社会の実現を目指し、誠心誠意努力を重ねてまいる所存です。皆さまのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。（１９５６年８月）

「日本語でプレゼンテーション」への参加について

琴崎　馨

今年も、外国ルーツの人向けの「日本語でプレゼンテーション」の行事が開催された。主催は、国際都市おおた協会。従来「日本語でスピーチ」だったものが、一昨年から「日本語でプレゼンテーション」に名称変更され、スライドを使った日本語スピーチ大会となっている。11 月 16 日（日）に、Minto Ota で開催。

今年の発表者は７人。内訳は、こどもが４人、おとなが３人。国別では、中国ルーツの人が５人、ネパールルーツの人が２人。１人５分のスピーチで、題材は自由。スライドは５枚程度まで。４人の審査員により評価する。最優秀賞１人、優秀賞２人、４人に副題をつけた審査員賞を授与する。

OCNet の学習者からは、２人が発表した。７人のうち４番目の発表で、元 OCNet 子どもクラスの学習者、タパ・スデチャさんが「言葉でつながる楽しさ」というタイトルで発表。タパさんはこの夏、OCNet 水曜大人クラスでボランティアスタッフとして日本語を学習者に教えてくれた。最優秀賞を受賞した。

７人のうち５番目の発表は、大人クラスの学習者、汪清清（ワンシンシン）さん。汪さんは「日本についての私のささやかな理解」というタイトルで発表。日本についての、気付きと考察を語るもの。審査員賞-文化のかけ橋賞を受賞した。

発表と表彰式の間に行われたゲームの時間は、クイズ約 20 問と、じゃんけん大会を実施。発表者と来場者を絡めて、６人ずつ６グループを構成して、正解数とじゃんけん勝ち抜き数を競った。グループごとに競いあう場面で、グループ内で協力し、おおいに盛り上がった。

運営にも、OCNet 関係者がおおいに関わった。発表時司会の二人のうち一人は、元ＯＣNet 子どもクラス学習者の伴野萌さんが担当。総合司会は、OCNet の琴崎が担当。５人の実行委員の一人でゲームのじゃんけん大会を実施した吉岡さんは、元 OCNet メンバー。

観覧者、協会の方々に、イベントの協力を感謝する。発表したタパさん、汪さんの発表の練習にも、OCNet スタッフが関わった。今後も続けたい。

～　発表者原稿　①　～

「言葉でつながる楽しさ」

タパ・スデチャ

みなさんこんにちは
私は、ネパールから来たタパ・スデチャです
きょうは、私のテーマである「言葉でつながる楽しさ」について話します
まずはじめに、このテーマを選んだ理由は、言葉は、ただ文字や音だけではなく、人とつながるための大きなツールであると思ったからです
普段、みなさんがだれかとコミュニケーションをとるとき、同じ言語を使っていると思います
現在、日本に来る、外国人も増え、日本語がわからない人も多くなっています
実際、わたしもその中の一人でした。私が最初に来たのは、小学校５年生の時でした。日本語もわからず、日本に住む予定もなく、３ヶ月間の観光のつもりでした。しかし、その後、日本に住むことになり日本の生活が始まったのです
私は、小さい時から両親と一緒に過ごしてた時間はなく、日本にきて初めて一緒に両親と過ごしました
小学校も日本の学校に通うことになりました。初日のことでした。わたしは、日本語で自己紹介ができなかったので、英語で自己紹介をしました。
こちらが、学校へ行った初日の写真です
ネパールは、制服で学校へいくのが当たり前だったので、私は、体操着が制服だと思い、体操着を着て行きました
しかし、みんなは、わたしを笑わず、あたたかく迎え入れてくれました。
日にちがたち、コミュニケーションをとるのが難しく、授業もすべてが日本語だったので、私は、なんとしてでも、ネパールに帰りたいと思うようになりました。
その時、わたしは、ネパール人の友達と出会い、そこで、日本語を学ぶためにＯＣNet に通うようになりました。
その後、自分を変えることができた、大きな出来事があったのです。
そのネパールの友人が、一緒に話すときも、ネパール語ではなく、間違えても、恥ずかしくても、わたしと日本語ではなそうと言ってくれたことでした。
わたしは、それまでは、日本語の先生がすごく心配するほど、何も話さない生徒でした。しかし、友達のアドバイスで、言葉とつながる楽しさをそこで知ったのです。わたしは、感動するくらい毎日、明るい学校生活を送るようになりました
その当時の作文と OCNet でのメッセージです
今は、アルバイトもして、日本語のわからないお客様が来た時は、英語でお手伝いもでき、日本語で「ありがとう」と言ってもらえたときは、１日が幸せになります
今の時代、スマホや AI 通訳などありますが、温かく、やさしく人の心を動かすことができるのは、コミュニケーションです。
わたしのように、母語ではなく、まちがってもいい、恥ずかしくてもいい、思いきって、日本語で話をしてみませんか？
きっと言葉でつながる楽しさが私たちの生活を明るくしてくれます
きょうは、ご清聴いただきありがとうございました

～　発表者原稿　②　～

「日本についての私のささやかな理解」

汪　清清

縁があって、ロシアで、今の夫―日本人の夫と出会い、その出会いをきっかけに、日本という国と深く結びつくことになりました。

彼と出会う前の私は、日本といえば、宮崎駿のジブリ・アニメや、「スラムダンク」など、温かくて、優しくて、そして前向きな力をくれる国。そんな印象を持っていました。

でも、実際に日本で暮らしていると、想像していた以上に、美しさの奥にある「心の深さ」に気付きました。

（一）人と故郷

日本の友人や先生方と話していて感じたのは、自分の国や故郷に対する深い愛情です。

ある授業で、「もし生まれ変われるなら、どこで生きたいですか？」という質問がありました。私はいろいろな国を思い浮かべていたのですが、先生は静かにこうおっしゃいました。「私はまた、日本人として、日本で生きたいと思います。」

そのとき、少し驚きました。世界はこんなに広いのに、どうして同じ国を選ぶのだろうか。けれども、その後他の日本人の友人にも訊いてみると、みんな同じように答えるのです。

そのとき、私は気付きました。彼らにとって故郷とは、他のどんな場所にも代えがたい、安心と満足をくれる場所なのだと。

（二）任に就き、責を尽くす

日本では、「国産」「日本製」という言葉をよく見かけます。しかも興味深いことに、それらは多くの場合、輸入品よりも高いのです。初めのうちは不思議に思いました。私の国では輸入品の方が高いのに、どうして日本では”自分の国のもの”がより尊ばれるのだろうか。デパートの店員さんが、客のいないときにも丁寧に一礼してから退勤する姿。報酬のないボランティア教師が、毎回手作りの教材を用意して授業に臨む姿。誰も観ていなくても、誠実にその役割を果たしていました。その姿を見て、私は静かな尊敬の念をいだきました。そして思いました。―「任に就き、責を尽くす」　自分の仕事を瀬永日に全うすることこそ、自分自身への最大の敬意なのだと。

そのとき私はようやく理解しました。「国産」という言葉が日本で特別な意味を持つ理由を。それは単なる“産地表示”ではなく、互いに信頼し合う証なのです。見えないところでも、誰もがまじめに生きているという信頼。それこそが、日本製が尊ばれる理由なのだと思います。

（三）人と海

私はもともと、にぎやかな場所よりも静けさを好む性格です。それでも、せっかく東京にいるのだからと、名所をいくつも訪れました。東京駅、新宿、上野・・・・・・。　どこも華やかで、人の波に圧倒されるほどでした。けれども、どうしてもその“魅力の本質”をつかみきれませんでした。

そんなある日、ふと足を向けた皇居外苑や新宿御苑、上野公園。そこは、喧噪から一歩離れただけで、まるで別世界。緑の木々、鳥の声、やわらかな風――。その静けさに、心がそっと揺さぶられました。

村上春樹さんの言葉を思い出しました。「海を見続けていると、人に会いたくなる。人に会いすぎると、また海を見たくなる。」

東京の魅力は、いつも賑やかであることではなくーー限られた土地の中にも、誰もが心を休められる“静けさの場所”を残していることだと、そのとき、私は感じました。

今では、私は少しだけ、日本という国の心に触れられた気がします。まだ“ほんの一部”しか知らないけれど、それでも、この出会いを心から大切に思っています。

ご静聴、ありがとうございました。

おもな活動報告

■にほんごのひろば「教え方研修」

夏休み中に、基礎２回、ステップアップ１回の計３回実施した

■大田区平和都市宣言記念事業「平和のつどい」第二部平和記念花火鑑賞会

８月２８日（木）会場：多摩川河川敷　25 人で見物。内訳は、スタッフ９名、学習者 16 名。

■高校進学ガイダンス
７月２０日（日）大田会場六郷工科高校　QR コード＋Google Form での予約受付。43 組の来場。（予約申込は 62 組）高校の食堂エアコン故障したため、大会議室と図書館の２カ所を使うという変則となった。図書館を中国語専用とし、大会議室をその他言語用とした。
中国語の部屋では、全体説明を日本語説明なしの中国語だけで実施。Q&A 対応に教員が詰めた。通訳に、OCNet 日本語子どもクラス出身の、ネパールルーツ高校生２人、大学生１人の手を借りた。通訳手配では、協力隊に伝手のある六郷工科高校の竹山先生にもお世話になった。

１０月５日（日）品川会場　品川区中小企業センターにて 30 組の参加。
ネパール出身者と、その他とに部屋を分けて実施

■中国帰国者センターのつどい
１１月１６日（日）　場所：大田区消費者センター　テーマは「子どもと戦争」
ノーベル平和賞を受賞した被爆者団体「日本原水爆被害者団体協議会（被団協）」の和田征子さんの講演。翻訳は大変で、翻訳機を使用する。

今後の活動予定

■お楽しみ会（仮）
２月８日（日）池上会館　調理室
学習者と共に各国の料理を調理するイベントを開催予定

～ふゆやすみのおしらせ～

にほんごのひろば１２月２６日（金）～１月２日（金）　開始１月７日（水）
にほんごのひろば子ども教室１２月２７日（土）～１月３日（土）　開始１月７日（水）
中国帰国者センター１２月２７日（土）～１月４日（日）

～事務局から会費納入のおねがい～

いつも変わらぬご支援ありがとうございます。２０２５年度会費がまだの皆様へ、会費の納付をお願いします。ご不明ことがありましたら下記のメールアドレスまでお問い合わせください。
三菱ＵＦＪ銀行蒲田支店普通預金 0038048 ｲｯﾊﾟﾝｼｬﾀﾞﾝﾎｳｼﾞﾝｵｰｼｰﾈｯﾄ

発行／一般社団法人ＯＣＮｅｔ
URL: http://www.ocnet.jp
住所 ： 〒144-0051 東京都大田区西蒲田 6-36-14 TKK マンション 1F
Address : 1F, 6-36-14 Nishikamata, Ota-ku, Tokyo, 144-0051
TEL＆FAX : 03-3730-0556　E-mail : jimukyoku@ocnet.jp